

小学校体育授業におけるラグビーの教材価値に関する研究

高江洲 優真 (琉球大学)

I. 目的

本研究では、ラグビーの体育授業時における中高強度活動の割合（以下、%MVPA）、試合時における得点数およびパスの連携について、他のボールゲームと比較・検討することを目的とした。

II. 方法

1. 期間および被験者

平成29年度9月から11月にかけて、沖縄県公立A小学校（以下、A小学校）および沖縄県公立B小学校（以下、B小学校）の第3学年の児童を対象とした。

2. 授業の単元構成

A小学校では、ラグビー6時間、サッカー6時間であった。B小学校では、ラグビー6時間、リングゲーム6時間であった。なお、各種目の活動量が大きく異ならないように配慮した。

3. 測定項目および測定方法

1) %MVPA

3次元加速度計（Active style Pro HJA-750C, オムロン社製）を用い、体育授業全体に対する%MVPAを測定した。

2) 得点数およびパスの連携

1チームが1試合あたりに得点した回数および1回の攻撃あたりに繋いだパスの回数を調査した。

4. 被験者の分類

新体力テストの総合得点により、性別で体力上位群、下位群に分類した。

III. 結果

1. 種目間における%MVPAの比較

A小学校において、種目間の%MVPAに統計的な差はなかった。B小学校では、ラグビーがリングゲームと比較して有意に高い値を示した ($p < 0.001$) (図1)。また、両校のラグビーにおいて、体力水準間の%MVPAに統計的な差はなかった (図2)。

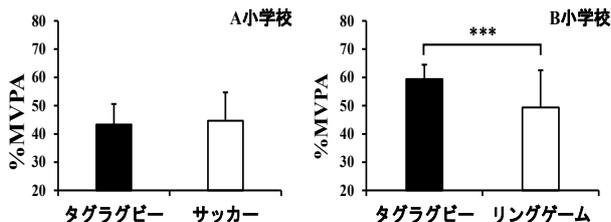


図1. %MVPAの比較 ***, $p < 0.001$.

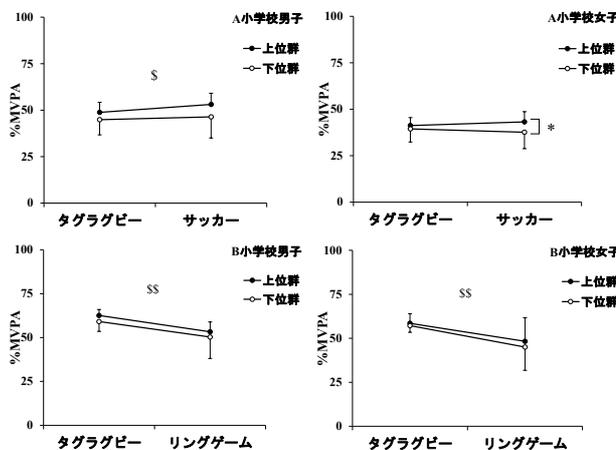


図2. 体力水準別による%MVPAの比較

* はサッカーにおいて、5%水準の有意差が認められたことを示す。

\$ は5%水準の種目の主効果, \$\$ は1%水準の種目の主効果を示す。

2. 得点数およびパスの連携の比較

両校において、ラグビーが他のボールゲームと比較して得点数およびパスの連携が有意に高い値を示した ($p < 0.001$) (図3)。

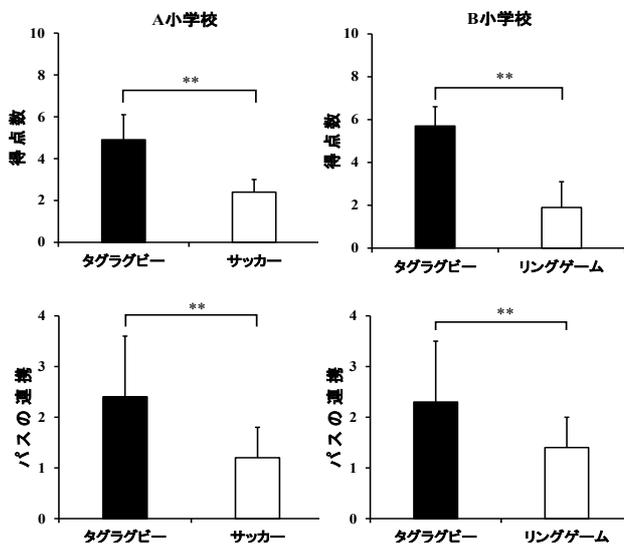


図3. 得点数およびパスの連携の比較 **, $p < 0.001$.

IV. 考察

ラグビーは、ボールを持って自由に走ることができるため、体力水準に関わらず他のボールゲームと比較して%MVPAを確保できる可能性がある。また、得点方法やタグ、オフサイドルールにより、得点やパスの連携が他のボールゲームより行いやすいことが考えられる。